

令和6年度第3回阿南市教育振興基本計画等策定委員会議事録

日時：令和6年11月26日（火）13:15～15:00

場所：阿南市役所 6階604会議室

出席者：委員：12人中10人出席（別紙委員名簿参照）

教育委員会：坂本教育長、林委員、里美委員、岡本委員

市側：中橋教育部長、鎌田学校教育課長、田上（毅）生涯学習課長、山下人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、松本学校給食課長、松村那賀川図書館長、中川科学センター館長、近藤青少年健全育成センター副所長、市瀬教育研究所副所長、事務局：田上（浩）教育総務課長、西岡学校再編推進室長、藤居学校再編推進室長補佐、小笹教育総務課長補佐

傍聴者：2人

会次第

1 開会

2 議事

- （1）第4期阿南市教育振興基本計画の策定に係るアンケート調査結果報告について
- （2）第4期阿南市教育振興基本計画素案について
- （3）その他

3 閉会

議事（1）第4期阿南市教育振興基本計画の策定に係るアンケート調査結果報告について

（委員）

アンケート調査の項目や選択肢は誰が決めているのか。

（事務局）

アンケートの項目や内容については事務局で検討している。

(委員)

P.48 の問 17 にある子どもの 1 日のスマートフォン等の使用時間について、5 時間以上の割合が小学生では 26%、中学生 41%と非常に高い割合の子どもたちが長時間スマートフォンを使っていることに正直驚いた。

また、1～2 時間の割合は半数以上を超えており、このスマートフォンやデバイスを日常的に使うことが、各家庭で当たり前になってきていると感じる。我が家を振り返ってみても、スマートフォンを触っている時間がとても多いので、一保護者として、真剣に考えていかないといけないなということをアンケートの結果から考える機会になった。

(委員)

数日前に人権学習の方で、スマートフォンの危険性を学んだ。その中で、1 日 1 時間以上使う子どもは学力が低下するという情報が入ってきた。また、5 時間以上は病気だと講師の方はおっしゃっていた。このあたり学校側から介入することはできないのか。

(委員)

学校での取り組みについて、スマホ教室や人権学習の方でネット学習はしている。

あくまでも端末は保護者が買い与えたもので、昔は高校デビューだったものが、今は中学デビューとなっている。本校においては、5 年生でも既にかなり持っている。そのため、子どもに同様の質問をしたら、もしかしたらもっと高い数値が出ると思う。

保護者がタブレットやスマホの管理をどのくらい程度できているかについては、1 時間 2 時間というのは家庭で管理ができている家で、5 時間以上は、あまり管理できていない家だと思われる。

実際に管理ができるのかについては、学校だけでの力ではなかなか難しく、買い与えたのは誰でかということ、よく家庭内でのネットに関する生徒指導問題が学校に持ち込まれるが、正直なところ苦慮している。

学校でもできるだけのことはしており、本校でも 12 月に講師を呼んで、1 年生から 6 年生まで学習してもらうが、小学校としては実際に家庭の方でお願いしたいというところがある。

(委員)

中学校の立場でお話させていただくと、基本的に端末を買って与えた以上、使い方についての指導・監督は家庭の方が中心になるという認識は、保護者と学校が共有しておくべきところだと思う。

学校でも指導には取り組んでいるが、その指導が浸透するようになるかは、車の両輪ではないが、保護者の方にも十分理解していただき、子どもに学校で指導した知識や対応の仕方を、普段からしっかり活用できるように家庭で後押ししていただくことが大切である。

そのような動きが取れないと、子どものスマートフォンの使用を管理することは難しいと思う。

（委員長）

オーストラリアであったと思うが、16歳未満の子どもには使わせないように法律で規制すると報道されている。

スマートフォン等について、あまりにも長い時間使うのは問題だが、その使い方次第である。適切に使うように先生方も保護者の方々も見守る必要がある。法規制については、日本では議論されていないが、規則で制限するか否かを含めて今後の検討課題であると思う。

アンケート結果については、この結果に基づいて今後の基本計画を立てるという点があるため、全体的な総括を書きいただければと思う。アンケートそれぞれの項目については、この通りであるが、この結果をもって、今後どういうふうに考えたらいいかということをもとめていただくと、基本政策の必要性が分かるため、総括を入れる方向でアンケート調査結果を見直していただければと思う。

議事（２）第４期阿南市教育振興基本計画素案について

（委員）

P.78の全校共通の制服の推進について、吉井小学校は私服だが、吉井小学校も制服を作るということか。

（事務局）

全校の統一した標準制服について、全国的にも取り組んでいるところもあり、阿南市でも考えてみてはどうかというご意見もいただいている。

ただ、標準制服を取り入れると言っても、一概に全部の学校に一気に標準制服を入れるということではなく、今後検討していく中で、色々な導入の仕方があると思う。再編も視野に入れて、標準制服の導入や検討もしていく必要があるため、一斉に導入するということではない。

（委員）

今まで話を進めてきた中で、市内は1つの学校になっていくことを考えると、現在は市内各校で色々な制服を採用していると思うが、市内は1つの校区、学校だというふうに考えて、制服も共通のものになっていくのもいいのではないかと考える。

(委員)

制服のことについて、私が吉井小学校に勤務していたときに制服の自由化になったことからお話をさせていただきたい。

私としては、制服というのはアイデンティティと考えており、制服に対する愛着がある方もいることから、市内を1つの学校とすることが果たして本当にいいのだろうかと思う。

また、県立学校でも、制服の議論をすごく丁寧にしないと色々な問題が発生するということが実際にあるため、これを計画に入れることが果たしていいのかということも心配している。

ちなみに、吉井小学校が制服の自由化をした時は、画一的な服を着させることについて、当時の校長が、世界の子どもたちの様子や文部科学省の資料を見せながら、1つに絞るのが果たしていいのかということで、制服の自由化を取り入れた経緯がある。

そのような歴史的な経緯もお伝えしつつ、私自身の意見としては、これは慎重に議論をして、計画に載せるほどの施策なのかどうかは考えた方がいいと思う。

(委員)

委員の話については私も同感である。

統一した制服の推進を、この計画の項目の中に載せることについて、正直言うと少し違和感がある。

言い過ぎかもしれないが、保護者の経済的な負担への配慮とか、何か背景にそういうものがあるような気がする。そもそも別の政策の項目なども本当に項目として入れるものなのかなと感じるものもある。

議論が十分に尽くされたものであればいいと思うが、計画の項目に「全校共通の制服の推進」を入れるのが適切かどうかということについては、もう少し議論の余地があるのではないかという気がする。

また、その件とは別のことで、中学校の立場から見ても、部活動の地域移行が盛り込まれているが、地域移行を推進していく課題の1つとして、社会の中に部活動の受け入れに見合うだけの受け皿があるかということが挙げられる。学校教育だけでなく社会教育におけるスポーツの振興という部分で、部活動の地域移行のための受け皿づくりに向けた何か施策を盛り込めるなら、それも地域移行の弾みになると思う。また、部活動といってもスポーツばかりではなく、文化部もあるので、その地域移行に向けた受け皿づくりはどのようになっていくのか少し気になった。

あくまでも、中学校の目の前にある課題として率直に感じたことを述べたものと受け取っていただきたい。

(委員)

小学校、中学校で私服の学校は吉井小学校以外にあるのか。

(委員)

ないと思う。

(委員長)

制服を作っていない市町村もある。ご意見を聞いていると制服の件を計画に入れるかどうかは検討するほうがいいと思う。

(副委員長)

P.21の児童生徒のアンケート結果で、運動することが好きかどうかということで、小学校、中学校ともに9割くらいの子どもが好きと回答している。これを伸ばしてあげられるように、地域移行やスポーツの環境の整備ということで施策を盛り込めたらいいと思う。一方で、教員のアンケートでは9割くらいの方が多忙であると回答し、その理由として授業以外のことで多忙であるということから、部活動も負担が大きくなっているということも考えられる。

この2つをうまく解決していくには時間はかかると思うが、地域の方でこういうのをしっかり受け止めていただいて、なるべく教員の負担を少なくしていただくことで、教員のなり手不足や持続可能な学校づくりに繋がっていくと思う。2つの相反することを言っているが、こういうふうな施策を盛り込んで解決していただけたらと思う。

(委員)

今現在、阿南市P連の本部役員で教育長要望を作成している。

その項目の1つに部活動の地域移行があり、みんなで話し合いながら要望を上げていこうとしている。

先日、徳島県教育委員会で地域移行について第2回目の会議があって出席したが、ここまでやっている市があるということを感じた。会議の最後には、司会の方から阿南市はどこまで地域移行は進んでいるのかという質問があり、担当の方は全く進んでいないと言われていた。おそらく再編統合が落ち着いてからではないと、地域移行する時の受け皿があるのか、拠点校を作るにしても再編統合の関係で決めかねない部分はあるというふうに思う。

また、文化活動にしてもスポーツにしても外部指導者に関して、指導者のスキルがどこまであるのか、研修のシステムはどうするのか、外部指導者のデータバンクみたいな形で実際にどこに声をかけて集めるのか、その他にも報酬、拠点校方式となった場合の送迎の費用負担、保険など難しい話がいっぱいあると聞いている。親としては、子どもが本当にやりたいことをやらせてあげたいと思うため、そこら辺は難しい部分もあるが、もし、地域移行をやるのであれば第一歩として、地域移行に関してのアンケートを教員、生徒、保護者を対象にそれぞれ実施していただいて、ある程度ど

ういうふうに考えているか把握することが必要だと思う。その際、アンケートは設問によって、答えや統計が変わるため、どんなアンケートを作るのかというのを吟味しないといけないと思う。

（委員）

部活動について皆さんのご意見を聞きながら、私はいつもその現場の子どもたちの数、生徒の数というのをいつも頭の中に入れている。

部活動の希望をとったら1つや2つじゃないと思うが、その部活動をどんな形でできるかというのは学校の人数によると思う。

吉井小学校や加茂谷中学校の子ども的人数を考えたら、部活動をどういうふうにできるのかと思うが、現状を教えてください。

（委員）

小学校については、野球部が横見小学校と合同でやっている。あとは、お母さんやお父さんたちの有志でやっているテニスクラブ、ティーボールクラブ、フットサルクラブがある。その他、外部で全然違うお金のかかる教室に通っている子もいる。

正直、学校には任せる範囲が限られてくるので、結構親が動いている状態である。

中学校に関しては、野球部や吹奏楽部などの大人数でやる競技を希望する子どもは他の中学校に行ったりしている。

ただ高校を見据えて、硬式野球を外部で習いつつ、中学校の陸上部に所属するといったことも最近出てきている。また、地元のBMX教室を部活動として登録している子もいる。

今現在あるのは、テニス部と卓球部と陸上部である。大人数の競技はないが、みんな友達を選んでいってる感じがする。そのため、ここには自分のやりたい活動と書いてあるが、運動部でも文化部でも帰宅部でもやりたいのがわかってる子もいれば、よくわからないから友達について行ってる子も多いと思う。

また、小学生は週に2回のため、親も送迎できるが、中学生は毎日で土日には試合も入るとなると、はっきり言って送迎は無理なため、親のサポートも少しは考えていただけるとありがたい。

（委員）

このようなことは加茂谷中学校だけではないと思う。福井の方も人数が少なく、よく似た状況だと思う。そのことも考えて、部活動を子どもたちのためにどうやって構築していったらいいのかなと皆さんのご意見からお聞きしながら考えている。

(委員)

部活動の地域移行について、あえて言わせていただくと、教育振興計画の中にこれを入れるということは、中学校から部活動という部分はなくなっていく、地域に移していくという考え方で進めるということだと理解している。どこの学校で何部ができるとか、維持できるとか、そういう議論は少し横に置いておいて、国の施策として、中学校の部活動を地域に受け皿となってもらって、子どもたちのニーズに応えられるように仕組みづくりを進めると言っているのだから、阿南市としても同様に進めていくのが当然だと思う。

そうした方向性は、大いにありがたいと思うし、進めていただきたいというのが私の意見である。

部活動の地域移行には部活動に代わる受け皿を社会に作っていくことや指導する人を確保することが必要になってくる。それは文化活動でも同様である。そのことを、この計画に入れていただければありがたい。

(委員長)

地域移行は、教員の仕事は量が多くて大変であること、一方で、スポーツや文化活動をはじめとして、色々なやりたいことの望みを子どもたちに叶えてあげさせたいということの折衷案として出てきたものである。

高専でも外部講師や外部指導者に頼もうとしても、なり手がいないという問題がある。

基本計画に入れることはよろしいと思うが、実現はかなり困難で、限定されたスポーツや文化活動になるという気はしている。

(委員)

1つは表記の点で、訂正した方がいい箇所がある。それは、P.18の就学児童・生徒の状況で、説明文の3行目に「小学校の減少率」とあるが、これは学校数ではないため、「小学生の減少率」または「小学校児童数の減少率」とした方がいいと思う。その後に出てくる中学校の記載も同様に修正した方がいいと思う。

また、アンケートにある施策の重要度や満足度について、特別支援教育に関する結果をみるとP.22の小学校の保護者では重要度が少し低くなっているが、よく見れば充実しているために重要度が下がっているというふうに見えた。同じようにP.24の中学校の保護者をみると、重要度が上がっており、中学校の特別支援に関係するところで手を入れていかなければいけないという保護者のニーズも感じた。また、P.31の教職員では重要度が上に全部来ていることは、保護者の障がいのある子どもへの教育の意識と違いがあり、教育現場や学校現場で重要度が上がるということは、それだけ困り感やどうにかしていく必要があるという意識が高くなっているように思った。

それを踏まえて、先ほど説明があったP.56の学校教育の方針の5の中に⑧と⑨を新設されたというところに繋がってくると思った。

学校以外の教育機会の確保や教育と福祉の連携については、障がいのある子どもたち、不登校、通常の学校ではちょっとはみ出したり、難しいという子どもたちは今増えている。支援学校でも不登校の子はいる。

それを学校の先生だけでなく、行政の方や民生委員の方など社会資源を使って、阿南市として広いところで見えていくということを、この方針の中に盛り込まれているように感じた。

（事務局）

今おっしゃっていただいた学校以外の教育機会の確保や不登校支援等については、国でも言われている、社会に開かれた教育課程の推進や地域とともにある学校のことも踏まえつつ、特に不登校支援については学校教育の中で抱え込むことも限界がきているため、そういった中で様々な豊かな学びが提供できる官民一体となった取り組みが必要になっており、そういった部分で広い視野を持って、様々な教育機会を提供できるような検討をしていければというふうに考えている。

（委員）

P.10の前計画の進捗状況の評価の部分について、この評価は誰がどのようにしたのか教えていただきたい。

学校教育を私達は担っており、二重丸がないことは由々しき問題である。この中には、なぜ二重丸じゃないのかということもある。他の項目についても、三角や丸や二重丸とあるが、誰がどのようにしているか自己評価なのか、関係者評価なのか、外部評価を取り入れているのかということで、この評価の制度が気になる。

（事務局）

評価について、それぞれの施策を担当する担当課の方で取り組みについて評価を毎年行っている。そのため、外部の委員などは入っていない。あくまで担当課の方で評価をしている。

（委員長）

ここは二重丸ではないかというご指摘があればお願いしたい。

（委員）

例えば、ICTを活用した教員の指導力の向上と働き方改革の推進については、ICTと働き方はイコールではないため別項目にさせていただきたいが、ICTを活用した教員の指導力の向上には、教育委員会はお金も使っており、人もつけており、時間を取るということを十分してくださっているため、二重丸でいいと思う。

それから、ALTの先生が小学校と中学校ともに必ず配置されて、阿南市においては１年生から外国の先生と直接的な会話ができるとか、コミュニケーションを楽しむことができるとか、学力向上に関しては、全国学力学習状況調査においても、阿南市が低いということはなかったと思われるので、手前勝手ではあるが、確かな学びを育む教育の推進という意味で、二重丸というにはおこがましいが、できているところはあると少し思っている。

防災安全教育の推進については、橘小学校や津乃峰小学校、阿南支援学校は防災甲子園でも全国１位に数回なっている。これは客観的な評価として認められるのではないか。それに加えて、龍谷大学に委託事業として、小学校には防災教育に手を挙げたところに講師が来てくださるということも実際にされているため、二重丸でいいと思う。今回のアンケートでも、防災教育については高い評価を得ていることもある。

また、科学教育、センター学習も阿南市だけである。担当課の方は控えめなんだと思うが、他市に比べると、科学センターを持っていることはなかなか無いため、二重丸でいいと思う。

（委員長）

学校関係者や保護者の感覚でチェックいただいて、こうではないかということを事務局に伝えていただいて調整いただければと思う。

（委員）

P.47の新しい施策として、子どもの意見表明というのがある。これは小学校、中学校の児童生徒を表しているのか。あるいは、子どもの定義である１８歳未満、高校生までを考えているのか。

また、感想として、先生の負担軽減がDXのところにあるが、しないことリストも作っていただき、現場の先生方の負担軽減を図っていただけたらと感じた。

（事務局）

子どもの意見表明の子どもの定義については、阿南市教育委員会が所管する小中学校の児童生徒としている。

（委員）

P.66の就学前教育の充実とこども園への円滑な移行の推進ということで、これは幼稚園や保育園がなくなり、こども園一択になるということか。

(事務局)

就学前教育の充実とこども園への円滑な移行の推進については、市長部局のこども保育課が所管になるが、保育所と幼稚園を統合した認定こども園化を阿南市として進めているところである。

現在は計画策定中ということで、計画ができてくると認定こども園の整備が進んでいくと思う。

(委員)

こども園では、小学校や中学校の他の学校との交流はあるのか。

(事務局)

すべてを認識しているわけではないが、それぞれ校区ごとの小中学校とこども園との交流や、教職員レベルで言うと、幼児教育から小学校に上がるための段差のないスムーズな移行ということで情報共有等をしている。

(委員)

各学校によって違う部分はあるが、吉井小学校であれば目の前に加茂谷幼稚園があって、職員会を一緒にしていた。富岡小学校では、富岡幼稚園の子どもたちを呼んで色々なことをした。長生小学校では、いずみクラブという放課後活動において、保育士コースみたいなものを作って、数名の子が行くということをしていた。ちなみに羽ノ浦小学校は、くるみ保育所やはのうら幼稚園等があるがコロナのこともあって、なかなかできていない。

このように、それぞれ各学校で工夫されていたり、中学校ではコロナ前は職業体験で保育所や幼稚園に行ったりして、学習していたということはお伝えしておきたい。

(委員)

認定こども園について、子どもの数にもよると思うが、認定こども園に集約する中で、どの認定こども園にどのエリアの子どもたちを収容していくかということ、阿南市としてはよく考えていただきたいと思う。所管はこども保育課であるが、その時は教育委員会として助言してあげてほしいと思う。

(委員)

委員からもお話にあった P.47 の子どもの意見表明について、子どもの意見を吸い上げる、聞いてあげる場合に、それを学校の中でどうやって聞いていくのか。

昔は生徒会長を選挙で選んで、選ばれた生徒会長が生徒の自治みたいなのをしていたが、そういった生徒会がないと学校の中で子どもの意見というのが反映されていかないと思う。

そのあたり、小学校には児童会があるということで、その児童会はどういうふうなことをやっているのか、もしよければお答えいただきたい。

（委員）

児童会については、ゆとり時代の頃は活動が盛んで、子どもの自治を考えたり、児童会の歌を作っているような学校もあった。

ところが、教育内容が段々と増えてきて、6年生は大体週29時間授業がある。その中で学級活動は1時間ということで、話し合い活動以外にも幅広いことをするため、学級会の時間をかけて取ることができにくい状況である。

学校によっても、まちまちである。本校では、去年度末に代表委員会を作っている。これは3年生から6年生までの学年を対象に、各学級の代表員として選ばれた子どもたちが、運動会のスローガンや学校の目標を立てたり、学校生活の中で問題はないかといったことを、月に1回休み時間を使って協議している。協議したことは代表員に各学級に持ち帰って話をしてもらう。ちなみに、本校では選挙はしていない。

子どもたちがたくさんいる時は児童会の選挙をしていた時期もあるが、今は児童会がある学校とない学校が現実にあると思う。

子どもの意見表明については、阿南市の市制50周年の時に子ども議会というのを、それぞれの学校から代表者を呼んで行ったことがある。そういう仕組みがあると、それぞれの学校は意見表明のために準備する時間が設けられていく。今回の子どもの意見表明でもそういうことを意識されていると思う。

この子ども議会には中学生は呼ばれなかったが、他市では中学生の意見を聞くとか、市長が出向いてタウンミーティングをするといったこともされている。そういう受け皿、活躍の場面があれば活性化できるのではないかなと思う。

ただ、学校現場としては、このような話が来た時に教員の負担がさらに増えることが懸念される。

（委員長）

3件意見がある。まず、参酌という表現が図中にあったと思う。市民の方も読まれるのであれば、あまり使わない用語なので表現を変えるほうがいいと思う。

それから、STREAM教育について、Rが意味するところはRobotics（ロボット工学）以外にもReligion（宗教）やReading（読解力）など色々な定義がある。それを明確にさせていただいたほうがいいと思う。文科省は既にSTREAM教育を充実させようと言っているのですか。

(事務局)

文科省は STEAM 教育である。

(委員長)

Rを入れるべきなのかどうか含めて、この STREAM 教育について検討いただきたい。また、載せる場合は、S や T は何を意味しているのかの説明を入れていただきたい。

また、生涯スポーツに e スポーツも入れるほうがいいと思う。お年を召された方が e スポーツをすることで脳が活性化して、いわゆる健康寿命が延びるということもあるため、検討いただければと思う。

(委員)

P.47 の子どもの意見表明について、それ以外の教育施策については、「～の推進」とか「～の充実」という表現になっている。ここに入るのは賛成だが、もう少し何か言葉を工夫した方がいいと感じた。

また、参酌についても、委員長がおっしゃったように別の言葉でわかりやすい言葉に置き換えた方がいいと思う。

(委員長)

その他、個人的に何か意見があれば事務局に連絡するということで問題ないか。

(事務局)

ご意見がございましたら、教育総務課の方までご意見をいただければと思う。また、次回の委員会を年明けの 1 月に予定しているため、年内にいただければありがたいと思う。

議事 (3) その他

質疑無し

以上